

日本体育・スポーツ政策学会第31回大会要項

大会テーマ

スポーツ・インテグリティに関わるスポーツ政策の在り方を考える～日本でのアスリート保護に関する実効的な制度構築に向けて～

主旨

スポーツに関わる倫理的問題について、IOCは「インテグリティは信頼性を含意し、競争とスポーツ団体の信頼性はオリンピックアジェンダ2020の3つの柱の一つである」とし、競争のインテグリティとしてIOCが取り組む3つの課題として「ドーピングとの闘い」「競争の操作の防止」「スポーツにおけるハラスメント及び虐待の防止」を掲げ、ハラスメント及び虐待をドーピングと並びインテグリティの問題として捉えている。

スポーツ指導者によるハラスメント及び虐待の問題については、アメリカにおける指導者による女子体操選手への性的虐待事件やイギリスの女子体操選手による指導者の体罰・暴言を理由としたイギリス体操協会を告発する事件の発生など、国際的にも問題となっている。また、日本においては、2020年7月にヒューマン・ライツ・ウォッチが出した報告書で日本の体育・スポーツ界における子どもへの指導者による体罰の問題が取り上げられ、2021年1月には、沖縄県の県立高校の部活動顧問教諭による体罰・暴言を苦にして部活動のキャプテンが自殺した事件が発生するなど、依然として解消されていない。

このような状況の下で、2017年11月にIOCは、IF及びNOCを対象として「IOCアスリート保護ツールキット」(IOC Athlete Safeguarding Toolkit)を策定し、IF及びNOCに対して、Safeguarding Officerの設置やガイドラインの策定を含め、アスリート保護のための体制を整備することを推進している。また、IOCによるアスリート保護の政策の一環として、2021年9月からIOCはSafeguarding Officerの資格を認定するためのオンラインでの研修制度を開始することとなり、その研修内容等を検討するための専門家による諮問委員会を2021年3月に発足させた。

以上のように、国際的には、アスリートの体罰・虐待等の問題への様々な取組がされており、日本においても、様々な論者によるスポーツ指導者による体罰・虐待の防止に関する論考が発表されてきたほか、2013年には日本オリンピック委員会、日本体育協会(現日本スポーツ協会)による暴力根絶宣言等の発表等が行われてきたが、前述した沖縄での事件のように、指導者による体罰・虐待は根絶されていない。

そこで本学会大会は、2020東京オリンピック・パラリンピック大会後の今後の日本の体育・スポーツ界において、指導者による体罰・虐待防止のための実効的な政策をどのようにして展開していくかについて、国際的な動向を加味して議論する機会とする。

1. **大会日程**：2021年11月27日（土）9:00～18:00
2. **開催方法**：オンライン（zoom）による開催
3. **主催**：日本体育・スポーツ政策学会
4. **主管**：日本体育・スポーツ政策学会第31回学会大会実行委員会
5. **後援**：スポーツ庁（予定）、鹿屋体育大学（予定）
6. **参加申込**：
 - (1) 申込期日：2021年11月17日（水）
 - (2) 申込方法：所定の「第31回学会大会参加および一般発表研究発表申込書」に必要事項をご記入の上、日本体育・スポーツ政策学会第31回学会大会実行委員会事務局（sportseisakugakkai@gmail.com）までEmailでご送付ください。この申込書は、日本体育・スポーツ政策学会のホームページからダウンロードできます。
 - (3) 参加費：一般会員 5,000 円、学生会員 1,000 円（期日までに参加申込みを行った発表者を除く学生会員は無料）、会員外 5,000 円、会員外院生 1,000 円（参加費は、テレビ会議システム使用料、講演料等に使用いたします）
 - (4) 参加費振込先：郵便振込口座番号 00130-4-561426
口座名 日本体育・スポーツ政策学会
 - (5) 備考：参加申込された方を対象にオンラインでの参加方法等をお知らせ致します。
鹿屋体育大学四十周年記念事業として開催します。
7. **研究発表**：
 - (1) 発表方法：事前に発表資料を公開し、当日発表は概要報告及び討論とします。
 - (2) 発表資料：次のいずれかを発表資料として期日までに PDF 文書で提出してください。
 - ①所定の様式に基づく論文形式の原稿（10,000 字以内、動機、目的、方法、結果、考察、文献一覧など）
 - ②パワーポイントスライド※参加申込みされた学会員には事前に資料を閲覧できるようにします。
 - (3) 当日発表：1 人 20 分とします。
 - ①発表者による概要報告（5 分）
 - ②指定討論者による質疑（6 分）
 - ③発表者による応答（4 分）
 - ④参加者との質疑応答（5 分）
 - (4) 備考：発表に関する詳細は発表申込み後、発表者に資料を送付致します。発表者は事前に接続テストに参加していただきます。

8. 一般研究発表申込

- (1) 申込期日：2021年10月13日（水）
- (2) 研究発表資格：研究発表者は会員であること。また、口頭発表者は原則として筆頭発表者とします。
- (3) 申込方法：所定の「第31回学会大会参加および一般研究発表申込」に必要事項を記入の上、Email (sportseisakugakkai@gmail.com) にて、第31回学会大会事務局へ申し込んでください。
- (4) 資料提出期限：発表抄録提出期限は2021年11月10日（水）、発表資料提出期限は2021年11月17日（水）とする。提出の際に、発表者全員が2021年度学会費及び学会大会参加費を納入済みであること。
- (5) 資料提出方法：発表申込み後に別途連絡させていただきます。

9. スケジュール

9:00 - 11:30 一般研究発表※発表者が多数の場合は、人数に応じて時間の延長または発表時間の縮小を行います。

11:40 - 12:25 理事会

12:35 - 13:20 総会

13:30 - 17:55 基調講演及びシンポジウム

テーマ「スポーツ・インテグリティに関わるスポーツ政策の在り方を考える～日本でのアスリート保護に関する実効的な制度構築に向けて～」

総合司会：山田理恵氏（鹿屋体育大学）

第1部：講演（13:30 - 15:00） 司会：齋藤健司氏（筑波大学）

テーマ「日本における指導者による体罰・虐待防止の取組の現状と実効的な体罰・虐待防止制度構築に向けた課題」

①森岡裕策氏（日本スポーツ協会）：日本のスポーツ団体における体罰・虐待防止の取組の現状と課題について（仮題）

②石堂典秀氏（中京大学）：海外における体罰・虐待防止の制度構築の現状と課題（仮題）

③森克己（鹿屋体育大学）・山田理恵氏（鹿屋体育大学）：日本における体罰・虐待防止のための制度構築について－イギリスの先進事例及び国際的な取組を参考にして（仮題）

※①～③は各20分発表+10分質疑応答

第2部：基調講演及びシンポジウム

Part 1：基調講演（15:10 - 16:40） 司会：日下知明氏（鹿屋体育大学）

テーマ①：スポーツ指導者による体罰・虐待防止に関する国際的な取組（仮題）

講演者：アン・ティバース氏（セーフスポーツインターナショナル議長、元 NSPCC CPSU ディレクター）

テーマ②：スポーツ・インテグリティに関するイギリススポーツ団体の取組（仮題）
講演者：マイク・カラン氏（ハートフォードシャー大学准教授、国際柔道研究者会会長、
イギリス柔道連盟コーチング委員会委員）

テーマ③：アスリート保護ガイドラインの国際統合化の試み－International
Safeguards for Children in Sport を例として（仮題）
講演者：ダニエル・ラインド氏（ラフバラ大学）

Part 2：シンポジウム（16:50 - 17:55） 司会：森克己（鹿屋体育大学）

テーマ「日本における指導者による体罰・虐待を防止するための実効的な制度構築につ
いて－国際的な取組を参考に」

第1部講演者全員、第2部基調講演者全員が登壇し、テーマについて60分質疑応答し、
コーディネーター（森克己）が議論を総括する。

18:00 閉会の辞 横山勝彦会長（同志社大学）

《問い合わせ先》日本体育・スポーツ政策学会第31回学会大会事務局
E-mail：sportseisakugakkai@gmail.com